講演　「『言語活動の充実』を拠点とした小学校国語科の授業づくり」

文部科学省初等中等教育局　教科調査官　水戸部修治　先生

今までも行ってきた「聞く・話す」「読む」「書く」という言語活動を充実させるとは？
　これまで身につけさせてきた教科書の内容や資料を読む力・自分の考えを発表する力が日常に機能するものだったか。実生活で生きてはたらくものにすること。

1　言語活動の有機的な位置付けが指導過程を変える！

「C読むこと」の場合

今までは「与えられた教材を場面ごとに詳しく読んで，最後に関連する本を読んで紹介しようね。」という言語活動が多かった。

【どんな読む能力を付けたいのか，「付けたい力」を明確にする。】

言語活動例のオ「好きなところの紹介をする」場合，どんな読む能力をつけたいのか。

〇本を選んで読む力・・・本をなかなか選べない・見つけられない。４５分の国語科の中でも日常の読書生活の中でも繰り返し位置づける。

〇ストーリー展開のおもしろさは場面ごとに読んでも分からない。通読を重層的に繰り返すことが大切。

〇何を指導するのか・・・**「好きなところの観点」**を与える。

ことばのひびき
場面の様子
行動のおもしろさ
自分の経験と重ね合わせて

少しずつ身につけさせることが重要

小説を読むとはどんな読書行為か・・・大人は場面ごとに心情を考えながら読んでいるのではない。
今まで行ってきた国語の授業のやり方で本当にいいのか？

◆言語活動を位置付けた「C読むこと」の単元構想ステップ
Step１　単元で付けたい力を明らかにしよう。
Step２　その付けたい力を育成できる言語活動を確定しよう。
Step３　その言語活動を遂行する具体的な能力をリストアップしよう。
Step４　リストアップした力を整理し，その力を身に付けられる指導過程を構想しよう。

2　G．P．S．を位置付けた言語活動の充実

～「言語活動」にどんな「言語能力」を埋め込むのか？～

（1）　学年の発達段階（Grade）の明確化

〇言語能力のグレードに応じて，言語活動を多彩に展開する。

（例）インタビューの発展系統　　さくらんぼ農家の方へのインタビュー

第１・２学年	第３・４学年	第５・６学年
〈大事なこと〉〈順序〉 ・話し手が伝えたいこと ・聞き手の自分が聞きたいこと	〈話の中心〉 ・１番聞きたいところをはっきりさせる。 「実われを防ぐには？」	〈意図を明確にして〉 ・雑誌に掲載するなど発信するために必要なポイントは。 ・何を語ってもらいたいか。

先生自身がやってみるのも有効な教材研究になる。

（2）　学習の過程（Process）の明確化

①課題解決の過程を重視して単元を構想する。

〈調べ学習に必要な「読む能力」とは？〉

・　読むことの指導事項は，説明的な文章の解釈・文学的な文章の解釈に関する指導事項などが６つある。一連の読むことの全体構造を見た上で本単元で何をするか確定することが大切である。

・　解釈するということに関連して資料を要約する。

日常ではどんなときに要約するか？たとえば映画のあらすじなら，見た子と見ていない子に言うのでは要約の仕方が変わる。目的があるとどこをどの程度要約するか姿がはっきりする。

何の目的もなく文章を短くすることは「縮約」。
目的や意図というフィルターをかけたときに見いだされるのが「要約」。

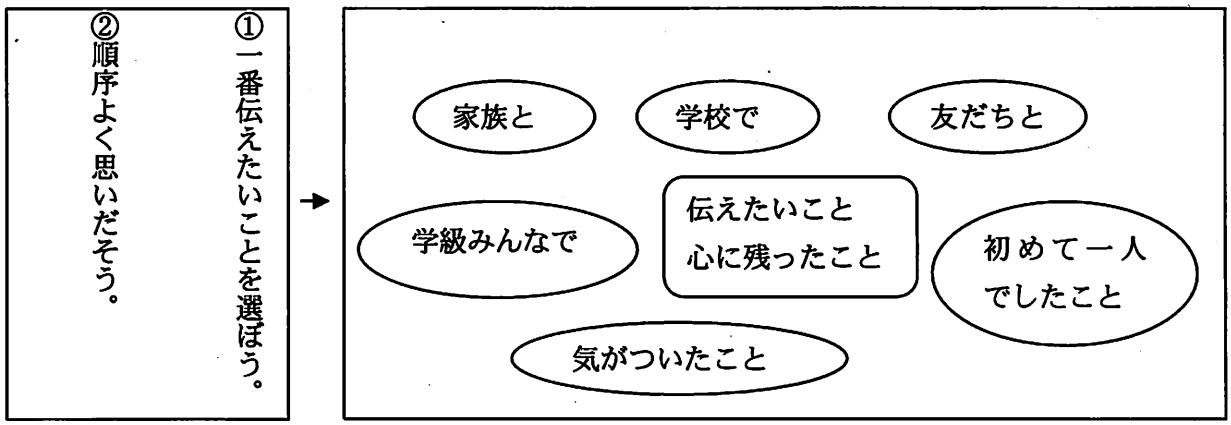
・　目的を持って読む。

与えられた文章の与えられたところだけを読んでいたのでは，調べ学習をするときに課題を見つけたり調べたりすることができない。書かれていないから知りたいと考えながら読むという読みの能力をつける。

②書くことでいうと

（例）体験報告文を書かせるとき

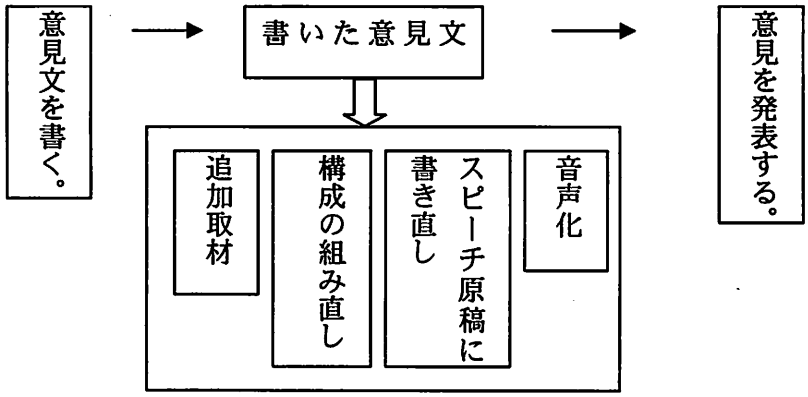
よくあるワークシート(書けない)　　視点をヒントとして与えたワークシートに書かせてみる。



③意見文を書いたとき「書くこと」と「話すこと」を複合させるために，書いた物を棒読みさせない。

書いた物をそのまま読むのは，書いた物を確認しているだけで話す活動ではない。

〈書き言葉を話し言葉に変換する過程〉



（３）言語活動の種類や特徴（Ｓtyle）の明確化

〇スピーチや文章の種類が「基本的な組立て」を規定

（例）美術館のパンフレットや新聞を見たとき

全体の建物の紹介・解説・作品の説明・図解・年表などいくつかの文章を複合している。

コラム・イベント情報・意見文などいくつかの文章を複合している。

観察記録文か調査報告文かどんな文種か具体的にして教材研究をする。

3　「C読むこと」の授業改革を！

（1）　付けたい「読む力」を明らかに

多様で幅のある「読む能力」の全体像を，指導事項をもとに確認しよう。

○「叙述を基に想像して読む」

→「叙述の種類」「叙述の範囲」「叙述の読み方」を明らかにする。

（2）「正確に読む」ことのイメージを再確認

（例）　資料を正確に読むとは？→与えられた文章の与えられた段落だけを読むのではない。

（3）自分の考えをもって読むこと～主体的な読者の育成～

「どう解釈するか」だけでなく「自分はどう考えるか」「自分の１番お気に入りは」

（4）文学を読むことの本質に迫る～解釈の可能性の検討～→読みを交流することの意義

解釈の多様性を活かす授業づくり・・・がまくんとかえるくん「おてがみ」より

かえるくんががまくんのところへ来る理由がない。シリーズの直前の話でけんか別れをしている。

シリーズを関連づけて読むことで理由が分かる。それが主体的な読者へつながる。

（5）　授業の中に多様な読書活動を

→主人公の性格を読むにはシリーズ読書が効果的。ほかにも読み聞かせ，並行読書，比べ読み，テーマ読書等々指導のねらいに応じて多様に。教科書の比べ読み教材開発を。

☆　教材開発の場を学校図書館や地域の図書館へ！

4　領域の複合による単元構成の可能性

「読むこと」と「書くこと」をただ並べただけではあまり効果はない。

調べたいことは何か。学習の見通しを持ったり既習事項を振り返ったりしながら単元を流していく。

～「C読むこと」×「A話すこと・聞くこと」or「B書くこと」～

☆　導入･展開部が書くことの課題設定にリンク！
・　自分の調べたいことに関する情報収集。
・　調査報告文の構想を持つ。

自分が書く文章の種類に応じた特徴を確認

導入	展開	発展
・　関連図書紹介 ・　読書・学習経験の想起 ・　課題を設定する。 （様々な科学的な本を読ませイメージを膨らませておく。）	・　疑問点やもっと調べたいことを見つけて読む。 ・　自分の報告文に生かしたい筆者の書き方を見つける。 （目的を持って読む。何がどう書かれてあるかを調べるだけでは分からない。何が書かれていないから何が知りたいか。）	・　疑問に思って調べてきたことについて報告する文章を書く。 （教材文は学者が子どもたちによく分かるように書いた文。子どもたちが書くのは，初めて知って書く調査報告文。文章の種類が異なることを認識する。）

子ども自身の課題意識を膨らませ，言語活動を概観する導入学習

・目的に応じた読み
・　書くことにおける取材

☆　発展部の言語活動が読む精度を高める。
・　疑問や調べたいことを見つけて読む。
・　自分自身の表現に生かしたいポイントを発見